

## シニアサッカーの現状と発展に向けた課題 Recent trends and future issues on senior soccer

1K10C030-3

指導教員 主査 岡 浩一朗 先生 石井 敬裕  
副査 中村 好男 先生

### 【諸言】

我が国のサッカー人口は大きく増加をしている。日本サッカー協会における選手登録者数は1979年度では273,887名であったのが、2012年度には953,740名と増加している。中でもシニア世代(40歳以上)の年度別選手登録者数は、統計開始の2000年度では4,669名であったのが、2012年度では21,900人と、約4.7倍の増加となっている。現在、シニアサッカーに関する様々な取り組みはメディアにも取り上げられ、「50歳から始めるシニアサッカー」という特集が組まれる等、高齢者の生活の質(QOL)向上や、認知症や寝たきりにならない状態で生活できる期間(健康寿命)を伸長させるために効果的であると考えられている。シニアのサッカー人口が増加している一方、年代別に見ると、年代が上がるにつれて選手登録者数が減少している。減少の理由として1)競技環境、2)競技意欲、3)家族の3点が考えられている。そこで、本研究ではシニアサッカーのリーグに加盟しているチームの現役選手を研究対象にインタビューを実施し、数ある課題の中で、シニア世代、特に60歳以上の選手登録数・チーム登録数が増加するために優先的に改善すべき課題を明らかにする。また、そのインタビューによって得られた調査結果を基に、介護予防という視点から生涯スポーツとしてのシニアサッカーの有用性を探究することを目的とする。

### 【方法】

1)出身大学のOBチーム2チーム、2)居住地域に根差したチーム、3)より競技性に重点を置いたクラブチーム、4)東京都シニアサッカー連盟が提供する練習会が元となったチームという異なる5チームにインタビュー調査を依頼した。その中で各チームから60代-80代の選手2-4名、計14名の男性選手を対象とし、チーム毎にインタビューを行った。インタビューは半構造的インタビューの方法をとった。質問項目は、1)シニアサッカーを始めたきっかけ[現チームに所属するようになったきっかけ]、2)現在シニアサッカーのチームでプレーをしていて一番楽しいと思えること・シニアサッカーを続けられる理由、3)今後シニアサッカー界全体が発展していくために必要とされる要素、解決すべき課題、4)自分自身にとってシニアサッカーという存在を表わす言葉の4項目とした。分析については、インタビューのテキストから、各チームのインタビューの詳細な内容について、質

問項目毎にテキストを引用しながらまとめていく方法をとった。各チームの発言をまとめ、中心的な意見を表としてまとめた。

### 【結果】

シニアサッカーを始めたきっかけとしては、出身校のOBの勧誘によってチームに加わるという事例が多く回答として出た。シニアサッカーのチームでプレーして一番楽しいと思えること、続けられる理由については、高齢者同士のコミュニケーションをとることができる、また、全チームのいずれかの選手の中に“サッカーが好きであり、プレーすること自体が楽しいから続けられる”という回答が見られた。今後シニアサッカー界全体が発展していくために必要とされる要素、解決すべき課題について、各チーム、各選手が口を揃えて一番に述べたのはグラウンドの増加や、グラウンドの芝生化といった、設備面の環境の充実であった。その他は、各チームの設立背景ならではの様々な回答が見られた。選手自身がシニアサッカーという存在を表わす言葉については、実に各選手のシニアサッカーに対する思いを回答した。インタビューを通じて、シニアサッカーを語る選手の姿は皆非常に明るく、いかに充実したスポーツライフを送っているかを伺うことができた。

### 【結論】

選手が回答した「今後シニアサッカー界全体が発展していくために必要とされる要素、解決すべき課題」の中で、全てのチームの選手共通で指摘された早急に改善すべき課題は、グラウンド数の増加というものであった。また、生涯スポーツとしてのシニアサッカーの有用性について、インタビューから、「健康のためにシニアサッカーでプレー」をしているわけではなく、「シニアサッカーを続けるために健康を維持しなければいけない」ということであったが、結果として平均健康寿命を上回ってもなおプレーができる、一般的な生活に支障が出ないということから、健康寿命を延伸しており、健康に非常によいスポーツであることがわかる。また、新たにシニアサッカーを始めたいプレイヤーは自分のプレースタイルや、シニアサッカーに対する志向に合わせたチームを選ぶことができ、何よりも楽しく仲間と汗を流し、時間を共有できるシニアサッカーは、生涯スポーツとして優れていることは明らかであると考えられる。